



国語問題

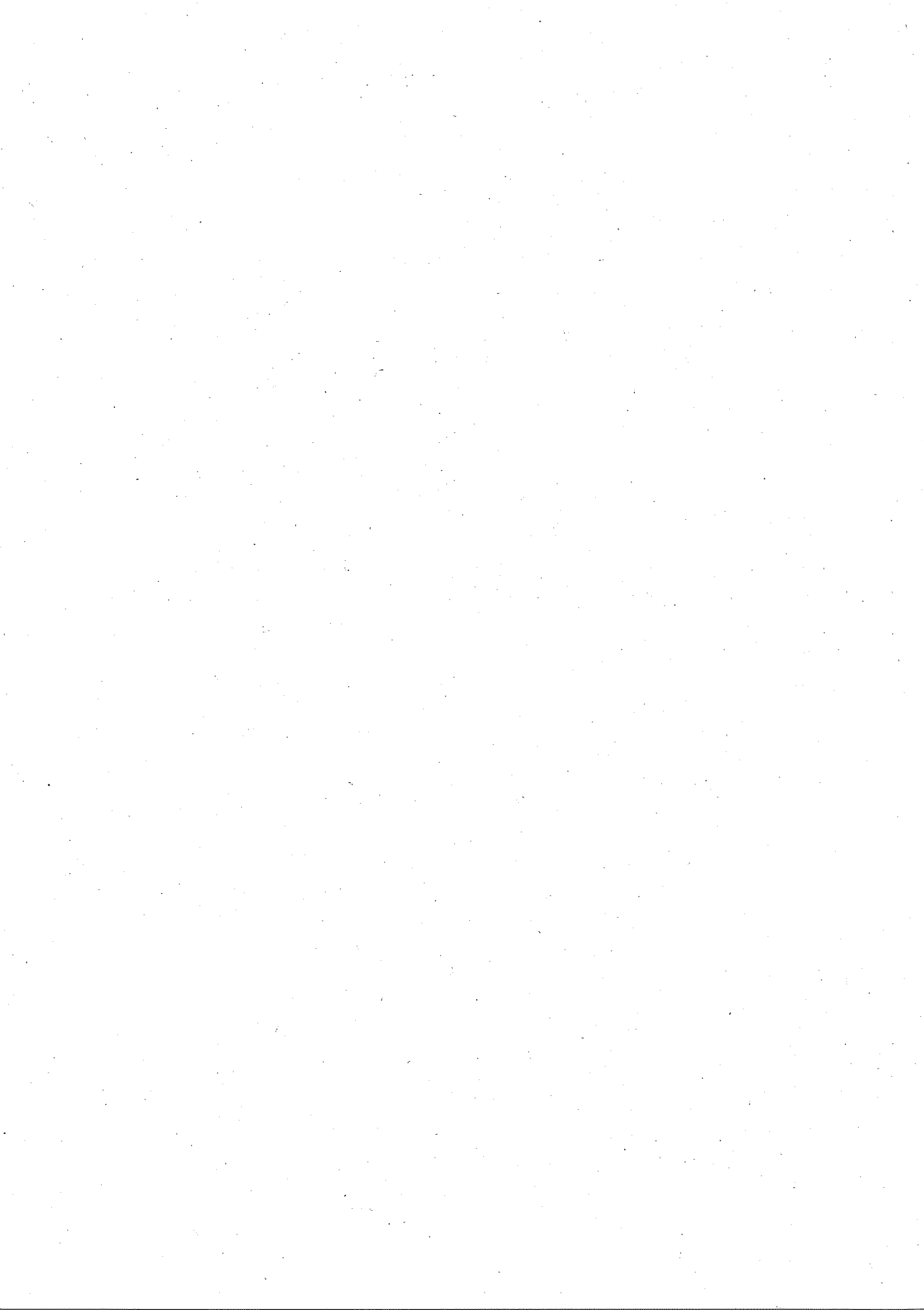
はじめて、これを読むこと。

(注意事項)

1. この問題用紙は一六ページまでである。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙の所定の欄に、必ず氏名を記入すること。
3. 解答用紙には受験番号が印刷されているので、受験番号が正しいかどうか受験票と照合して確認すること。
4. 解答はすべて「解答用紙」の解答欄に記入またはマークすること。解答欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入すること。
6. 訂正は消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
7. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
8. 文字は楷書で正確に書くこと。
9. 解答用紙は持ちかえないこと。
10. この問題用紙は必ず持ちかえること。
11. 試験時間は六十分である。

(マークの記入例)

良い例	悪い例
	



(一) 次の文章を読み、後の問に答えよ。

多くの人と同じく、私にも「過ぎ去らない作家」がいる。人は成長や成熟、あるいは墮落に依じて読む作品の好みを変え、通過して二度と戻らない。ただ、人生の節目になると、ある作家ばかりは何度も立ち還って読み直し、その都度、新たな慰藉^①や励まし、叱咤を受け取る。それが「過ぎ去らない作家」だ。

私にとって、幼い頃から読み始め、今も過ぎ去らない作家といえば、啄木と賢治、そして漱石だ。共通点が二つある。いずれも姓ではなく、名前や雅号で呼ばれる。それと、今でもほぼ注釈なしに作品を読み進むことのできる点も共通している。三人は近代と切り結んで独自の表現を紡ぎ、私たち現代人も、彼らの感情や意識と地続きの世界を生きている。言い換えれば三人は、「私たち」の感情や意識を最初に発見した「同時代人」なのだ。

私の知る限り、同じ岩手出身でありながら、啄木ファンと賢治ファンは重ならず、多くは相容れないように見える。だが二人の大先輩の漱石となると別格だ。これ以上、読者の裾野が広く、繰り返し読み継がれてきた作家は他にいないだろう。それは、漱石の文学が汲めども尽きぬ豊饒さを持ち、その表現の源が目の眩む深みにあるという理由だけではないように思う。漱石が突き付けた課題が、いまだに解決されず、片付いていないからだ。

^B その代表が「個人主義」だ。

漱石は大正三年に学習院で「私の個人主義」という題で著名な演説をした。例によって嘶家のように巧みな枕と失敗談で聴衆を釣り込み、おもむろに本題に入る。

幕末最後の年に生れた漱石は、その人生が明治期をすっぱりと覆っている。

^A

、文明開化という近代の衝撃を、ロン
ドン留学でじかに、全身で受け止めた人だ。江戸期に生を享けた人が、西洋文化の本丸である英文学を専攻する。西洋の知識の借り着をして、「孔雀の羽根を身に着けて威張っている」人々が多いなかで、漱石はいつも腹に空虚を蔵し、霧に鎖^まされた人のように陰鬱な日々を送った。そして最後に辿りついたのが、自分が独立した一個の日本人で、決して英国人の奴婢ではない、とい

う」a」の境地だった。

その立脚点の発見を、漱石は「自分の鶴嘴をがちりとコウミヤクに掘り当てた」と形容し、学生にも、煩悶や迷いを突き抜けて自分の個性を発見することが、何よりも安心立命に繋がると説く。だが、学習院のような大学に進む人々には、特に注意すべきことがある、と漱石は続ける。それは上流階級の子弟に付随する「権力」や「金力」の処し方だ。

「権力」は「自分の個性を他人の頭の上に無理やりに押し付ける道具」であり、「金力」は、自分の個性を拡張するために、「他人をその方面に誘き寄せる」道具である。

自分の個性を發展させる自由を享有している人は、他人にも同程度の自由を与えて、同等に扱わねばならない。イ、

権力を持つ者は、他人が個性を發展させる自由を妨げず、他人をして礼を正さしむるだけの義務を果たす必要がある。金力についても、人間の徳義心を買ひ占めることなく、それに伴う道義上の責任を負うべきである。ウ、他人の個性を妨害せず、権力の濫用を戒め、金力による腐敗を防ぐ人格こそが肝要なのだ。こうして漱石は「義務の觀念を離れない程度において自由を愛する」態度を「個人主義」と呼ぶ。

この態度の対極にあるのは、bである。自分は自分、他人は他人という「個人主義者」は、批判や攻撃を受けても人に助力を頼めない。ある場合には独りぼっちになる淋しさにも耐えねばならない。

またある人は「個人主義」を国の敵であるかのように非難するが、漱石は「豆腐屋は国家のために豆腐を売って歩くのではない」と言つて、「国家、国家」と騒ぎ立てる人々を、「火事が済んでも火事頭巾が必要」と言つたり、「火事の起らない先に火事装束を

つけ」て町内中を駆け歩いたりする人々に例える。

c 漱石が本格的に小説の筆を執つたのは、一時は列強の攻勢で存亡の危機に立たされた日本が、外発的な文明開化によつて国力を増強し、日露戦争で「一等国」になったと浮かれ騒ぐ時期だった。その「個人主義」を一言でいえば、自分を恃む一方で他の自由を妨げず、権力や金力を自制する謙抑の精神だったろう。

明治維新という第一の危機を乗り越えた日本は、敗戦という二度目の危機を克服し、グローバル化という第三の荒波でも、ど

うにか没せずに来た。その危機のたびに、漱石の「個人主義」は、この国に生きる人々が共有する指針となってきたように思う。漱石没後百年を経て、英国のEU離脱、トランプ米大統領誕生という次の荒波の波頭が見えてきた。私は再び、「過ぎ去らぬ作家」に立ち還って指針を求めるしかない。

(外岡秀俊の文章による／漢字表記は原文通り)

〈注〉 鶴嘴——つるはし。堅い土砂などを掘削するのに用いる工具。

問一 傍線部①の漢字の読みをひらがなに、傍線部②のカタカナを漢字に改めよ。

問二 傍線部A「二人の大先輩の漱石」となると別格だ」とあるが、筆者は特に漱石のどのような点を別格だと見なしているのか。

最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 啄木や賢治が名前や雅号で呼ばれるように、漱石も姓では呼ばれない点。
- 2 漱石没後も、彼の考えが日本に生きる人々の手引きとなり続けている点。
- 3 漱石の文学が豊かな内容を持ち、その文章も目の眩むほどにきらびやかな点。
- 4 漱石が生前から「個人主義」を唱え、「権力」や「金力」を批判した点。
- 5 漱石が英文学に影響を受けながら、常に日本人としての矜持を持ち続けた点。

問三 傍線部B「その代表が『個人主義』だ」とあるが、漱石の個人主義の特徴を本文中の語句を用いて、三十六字～四十字(句読点も一字と数える)で記せ。

問四 空欄 に入る語の組み合わせとして最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマ

ークせよ。

- | | | | |
|---|-------|--------|--------|
| 1 | ア つまり | イ だから | ウ しかも |
| 2 | ア つまり | イ しかも | ウ だから |
| 3 | ア しかも | イ だから | ウ つまり |
| 4 | ア しかも | イ けれども | ウ つまり |
| 5 | ア それに | イ だから | ウ けれども |

問五 空欄 に入る言葉として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- | | | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| 1 | 面従腹背 | 2 | 行住坐臥 | 3 | 則天去私 | 4 | 不撓不屈 | 5 | 自己本位 |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|

問六 空欄 に入る表現として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 全体の利益を守るために、個人の福祉を充実させる全体主義
- 2 徒党を組み、権力や金力をほしきままにしようとする党派主義
- 3 自分勝手な主張を好まず、全世界的な平和と人権を守る人道主義
- 4 己のみを頼りにし、たとえ一人となっても主張を曲げない利己主義
- 5 権力だけでなく、自己を誇示するために金力を有効に利用する金権主義

問七 傍線部C「漱石が本格的に小説の筆を執った」とあるが、「夏目漱石」の名前で発表された最初の本格的な小説を次の1〜5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 「吾輩は猫である」
- 2 「坊っちゃん」
- 3 「虞美人草」
- 4 「三四郎」
- 5 「草枕」

(二) 次の文章を読み、後の問に答えよ。

ボクを外科へ導いてくれた先生のなかで、こういう人こそ指導者なんだとしみじみ尊敬する先生がいた。若いころ、ある研究会が終わるとボクは(所属がちがうのに)その先生の部屋に呼ばれた。外科は内科から患者さんを紹介してもらうことが多い。知の宝庫であり医学界を動かしている内科医と対等に患者の病態について話し合える知識をもっていなければ、内科医からの患者紹介はおぼつかないと諭された。

内科医を交えた症例検討会や学会場でディスカッションになると、恩師はなぜかその場の雰囲気を一気にがらりと自由にする魔術師だった。参加者の肩をほぐし、本音を引き出すのに長けていた。参加者はばかりか会場くまなく、それこそ机やイスや出入り口のドアのノブまでもリラククスさせてしまう。「こんなことを言ったらみんなに笑われてしまう」と、ふだんは躊躇する引っこみ思案が催眠術をかけられたようにシャイなキモチをどこかへ置いて発言する。そんななかにみんなの視点を「エッ」とさせるような貴重な意見が埋もれていたりする。だから実のあるディスカッションとなる。ボクも恩師のようになりたいとずっと努めてきたがままならない。これは、一に恩師の人柄による。知識を体系化しようとする学問への探究心、豊かな経験、見識ある態度、柔和な容貌、そして患者への思いやりある心根がいつせいに会場のみなにつたわる。ボクはそう思ってきた。

A ボクのもやもやを最近の研究が解消してくれた。人の感情が流行病のように感染するというのだ。人に接していると、その人の表情や感情、話し方が似てくる。穏やかでおっとりした顔、ほくそ笑んだ顔、そしてふくれっ面。それらの顔を見るとこちらの顔の表情筋までもが真似したように動く。それも知らないうちに。幸せそうな顔を見るとつい微笑んでしまう。笑みをつくる頬の筋肉の活動が亢進する。不快感を露骨に表した顔を見ると、こちらの眉の筋肉が余計に興奮する。こうしたプロセスのなかで相手の「感情」を読みとっている。読みとるといふよりはもはや「知覚」する。相手がなにをを考え、どんな感情を抱いているかを知りたければその人の表情にできるだけそっくりな表情をすればよろしい。まずは相手の顔を真似ることがはじまりとなる。そうした a で相手の心を読む。そして感情が伝染する。頭をくるくるめぐらせる思考など必要ない。これまであなたは

(筆者も)、まずは相手のキモチを知り、そのあとではじめて相手の顔の表情に同調し、こちらの表情ができあがっていくものと思っていたであろう。が、そうではなさそうなのだ。べつに相手の表情を模倣しようと努めなくてもいい。意識することもなく自動的につい真似してしまうからだ。

さらに脳生理学が解き明かした嘘うそのような本当の話は、悲しいから泣くのではなく、嬉しいから小躍りするのでもない。悲しみや喜びを表すときに活動する顔の骨格筋が収縮し、悲しみや喜びが湧いてくる。そうした後に感情がそれに合った思考へと導いてくれる、そうだ。にわかに信じがたいことである。

キモチが顔をつくるのではなく、顔の筋肉がキモチをつくる。さらに言えば、顔に限らず骨格筋が収縮することがキモチをつくる。その意味で骨格筋はキモチより上位にある——その例は、運動をしたあとの充実感や爽快感がよく説明する——。精神力が肉体の限界を超えさせるという精神修養を重んじる日本人にとっては、これまでもちがう概念だ。(中略)

T・チャートランドとJ・バーは、人は他人の表情ばかりか、しぐさまで——貧乏ゆすり、あくび、顔に手をやる、頭をかく、背伸びをする、指をならす、耳をかくなど——知らないうちについて真似をしてしまうことを明らかにした。実験では顔をこするとか足をゆらすという動作をひとりの実験助手、つまり仲間内が部屋のなかでオーバーに演技する。その部屋にはひとりの本物の被検者(注1)が別にいる。被検者は実験助手が自分とおなじ立場の被検者だと前もって知らされているので、この実験には別の意図があるものと思っている。部屋の外から観察していると、被験者は、実験助手が大げさにおこなうしぐさを真似た動作を無意識に頻繁におこなっていた。

そしてつぎも彼らの実験だ。人は知らないうちに自分のしぐさを真似されると、その人にどう印象をもつだろうか。被検者のふりをした実験助手が、こんどは別にいる本物の被検者の真似をする。もちろん被検者は研究の本当の意図をなにも知らされていなくて動きは自然だ。そうした本物の被検者の姿勢やしぐさ、癖などをエセ被検者Cがカメレオンのように真似る。さらにもうひとり、別のエセ被検者はとくに真似することなくじつと座っている。はたして本物の被検者は自分を真似た人、あるいはじつとなにもせずいた人のどちらに好意をもつだろうか。この実験でわかったことは自分の姿勢、動きや癖を真似する人に強

く好感をもつということだった。また別の実験でチャートランドとバーは、他人の動作を真似る回数が多い人ほど、他人のキモチを思いやる共感反応が高い傾向にあることも明らかにした。

真似をすること、それがどうしてほかの人の感情を気にかけることにつながるのだろうか。人の表情を模倣することに「ミラーニューロン」が関係している。

さまざまな表情をもった顔——満面の笑みを浮かべた顔、ちよつと陰のある哀愁を帯びた面影、眉間と視線とに張りつめた緊張感をみなぎらせた表情、気品を漂わせどこか声をかけにくい澄まし顔、エキゾチックで明るくて、つい誘いたくなる顔——を見ると、大脳の運動野のミラーニューロンが反応しておなじ表情をつくらせる！そして興奮したミラーニューロンから大脳辺縁系へシグナルがとどき、相手の表情に呼応する感情、すなわち相手を感じていることをわたしたちに感じさせる（共感のミラーニューロン仮説）。相手の感情を読みとることに雑作はいらない。相手の表情の真似をすればよいだけだから。それも自動的にミラーニューロンがやってくれる。

実は運動野のミラーニューロンと大脳辺縁系とは「島」を介してリンクしている。以下はM・イアコボーニらの実験だ。いたって健康な人たちに、赤ちゃんの七変化ではないが、悲しい、嬉しい、怖い、怒り、ビックリ、そして不快なキモチが満載された顔の写真を見せ、そのときの、さらに被験者がそれらの表情を真似しているときの脳活動を機能的核磁気共鳴装置（fMRI）で調べた。脳スキャンの結果、顔の写真を見ているあいだ、運動野のミラーニューロン領域、島、そして大脳辺縁系の扁桃体がいつせいに活性化し、さらに顔の表情を真似た被験者ではそれらの活動レベルが高くなっていた。

感情を顔にそのまま素直に出すとその感情はさらに高まる（サッカースタジアムに足を運べばすぐわかる）。反対に感情を抑えようと顔の表情を変えないでいると、喜びや悲しみや怒りも恐怖もすべて和いでしまう（多分、みんなも経験があると思う）。骨格筋運動が精神面に影響することを物語るよい例だが、顔の筋肉活動が感情を左右するという「顔面フィードバック仮説」をミラーニューロンはよく説明する。だれか怖そうな人に会うとき、「口笛を吹いて」いこう！ニコッと、口笛で楽しい音楽を吹けば、恐れが自信に変わる。強面を前に緊張すると、それだけで気分は萎縮してしまう。自分もかたい怖い表情になってしまう。

でも、こつちが笑顔で接すれば相手も軟化する。怖いと思う人ばかりでなく、自分までもだましてしまう！

だれでも、大切な人を失ったとき、涙が心臓の鼓動のようにあとからあとから湧いてくる。拭いても拭いてもあふれ、せき止めるすべもない。でも、そうした悲しみの実体験や、心のなかで悲しい場面をイメージしなくても人は悲しい感情を湧きおこすことができる。エーツ、そんなことできるのオ、と誰だつて思う。それだと悲しいから泣くのでなく、嬉しいから小躍りするのでもないということ？ そのとおり。悲しい表情、沈んだ面持ち、小さくなって落とした肩、そしてうつむいて歩くから悲しくなるのだ。頬つぺたが落ちそうな満面の笑み、雀がピョンピョン跳ねるように手も足も全身で表す喜びよう、だから嬉しくなる。背筋をのびし、前を向いて堂々とするから自信をもつて文字どおり前向きになれる。顔やカラダの骨格筋の活動が感情をコントロールしている。

それじゃ、オオカミに追いかけられたときは真つ先に恐怖——つかまつて食べられるという恐ろしさ——を感じて必死で逃げるけど、これはどう説明する？ それは恐怖を感じる前にすでに全速で走り、心臓が早鐘のように打ち、呼吸があえぎ、胃がギューツと縮む。そうした直後に怖いという感情がおきるのだ。

顔やカラダの骨格筋におきる変化が人を悲しく、あるいは喜ばせる。なにも悲しいとか嬉しいとかいった出来事がないのに、あるいはそうしたイメージを心で再現しないのに、役者が「演じる」悲しみや喜びの「表現」とおなじ類いの感情と思考を骨格筋は引きだす。役者はあくまでもその登場人物の心に置きかわり喜怒哀楽の場面を頭で描き情動を心で誘発する。そうしたのちに芸術とも言えるほどの演技でそれらの情動を感情として表現する。それに対して骨格筋は心の過程を経ず、喜怒哀楽を操るところが役者以上なのだ。

こどものころ、みんなでご飯を食べているときテレビで「東京だヨおっ母さん」を歌う(注2)鳥倉千代子がはらはらと落涙し熱唱するのを見てたまげた。と思ったらそれを見ていた親父も泣いていたのでさらにビックリした。鳥倉千代子はプロの役者で、父親はミラーニューロンによる物まねだった。

(三村芳和『カラダの知恵』による／漢字表記は原文通り)

〔注1〕 被検者——本文中の「被検者」は「被験者」と同じ意味。

〔注2〕 島倉千代子——昭和三十年代から平成二十年代前半にかけて活躍した演歌歌手。NHK紅白歌合戦に三十五回出場した。

問一 傍線部A「ボクのもやもや」とは、具体的にどのようなものか。最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 恩師が会場の机やイスや出入り口のドアのノブまでもリラックスさせてしまうこと。
- 2 他人の顔を見ると自らの顔も真似たように動き、感情が流行病のように感染すること。
- 3 恩師のように他人の肩をほぐし本音を引き出したいとずっと努めてきたが、ままならないこと。
- 4 内科医から患者を紹介されるには、内科医と対等に話し合える知識が必要だと恩師に論されたこと。
- 5 学問への探究心、患者への思いやりある心根等を有する恩師の人柄が医学界のみんなにつたわったこと。

問二 傍線部B「読みとるというよりはもはや『知覚』する」とあるが、筆者がこのように表現する理由として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 人には、論理的に他人の感情を理解し、その感情に同調する機能がそなわっているから。
- 2 人には、他人の表情を見ただけで、瞬時にその人の感情を推測し理解する機能があるから。
- 3 人には、どのような状況下でも他人の心を読み、読みとった感情に伝染する機能があるから。
- 4 人には、他人と同じ表情を自然と作り、その表情にふさわしい感情を生じさせる機能があるから。
- 5 人には、誰にも思いやりの精神がそなわっており、常に他人の感情に共感する機能があるから。

問三 空欄 a に入る語として最も適切なものを次の1〜5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 擬態
- 2 虚飾
- 3 破顔
- 4 想像
- 5 知見

問四 傍線部C「エセ被検者」とあるが、ここでは具体的に誰を指すか。本文中から漢字四字で抜き出して記せ。

問五 傍線部D「顔の表情を真似た被験者ではそれらの活動レベルが高くなっていた」とあるが、その理由として最も適切なものを次の1〜5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 他人の顔を積極的に模倣することで、ミラーニューロンが反応するから。
- 2 写真を見ることで様々な実体験を思い出し、様々な感情を抱くようになるから。
- 3 他人の動作を真似ると、その真似をした対象に強く好感を持つようになるから。
- 4 反応したミラーニューロンから大脳辺縁系へシグナルが届いて感情が湧くから。
- 5 脳の活動は、目に入った情報の量が多く、さらにその内容が複雑なほど高まるから。

問六 傍線部E「怖いと思う人ばかりでなく、自分までもだましてしまおう」とあるが、その説明として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 他人に対して怖いというキモチをもつことによつて骨格筋が自然に動き、こちらの表情も優しいものになってくる。
- 2 この世は怖い人ばかりだというわけではなく、怖いと思つていた人もこちらのキモチ次第で優しい人に感じられてくる。
- 3 怖そうに見える人はそう演出しているだけなのであり、こちらが逆に親しそうなふりをすれば関係はよくなつてくる。
- 4 怖いと感じられる相手も自分も、互いに本心を隠しキモチを抑えれば、人間同士の仲間意識はよいものになつてくる。
- 5 本心では怖いと思う相手でも自分が親しそうに接すれば、相手は緊張しなくなり、自分も怖さを感じなくなつてくる。

問七 傍線部F「島倉千代子はプロの役者で、父親はミラーニューロンによる物まねだった」の意味する内容に最も近いものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 美術館で美しい壺を感動しながら見ていたところ、隣の来館者も顔を紅潮させ興奮していた。
- 2 電車内でお年寄りがつらそうに立っていたので席を譲ろうとしたら、他の乗客も皆立ち上がった。
- 3 映画の冒頭シーンで女優がいきなり大けがを負い苦悶するのを見て、いつのまにか自分の顔もゆがんでいた。
- 4 廊下で私と友人が今流行中の芸人の物まねをしていたら、通りかかって見ていた先生が大声で笑ってくれた。
- 5 昭和の戦後復興を題材にした小説を読み終えて、自分も前向きに生きていこうと思ひ涙も出てきた。

(三)

次の文章は「恋路ゆかしき大将」の一節である。恋路関白の妻である女二宮は出産が近づき、陣痛に苦しんでいた。そこで、女二宮の異父兄で恋路関白とも懇意にしている花染右大将(大将)が、戸無瀬の院にいる無言の聖に加持祈祷を依頼する。これを読み、後の問に答えよ。

かく言ひつつ五六日にもなりぬ。まことに今は亡き人の御さまなるは、言はん方なきわざかな。山々寺々に駿ある僧求め尋ねらるれど、さらにかひなきに、戸無瀬の院にさぶらふ無言の聖といふ者を、大将の君召したり。何事をいかにと言ひ知らすれど、ただうちなづきて返事をせぬは、いみじういぶせけれど、院の中をあちこちしありきて、物を求むるやうにすれば、とかかくかと言へど、また音もせず、たち騒ぎたる中を分けありきて、井のもとへゆきて、手づから汲みつつ飲むさまも、現の人とは覺えず。大将をはじめ、こなたへあなたへと騒ぎ導き給へど、いとも騒がず、ただ目うちたたきて、何事そらと思ひたるけしきなり。からうして御帳の傍らへ召し寄せて、さぶらはせ給ふに、加持参る声おびたたく澄みのほりて、大山も崩るばかりなるに、御物の怪どもあらはれて、さまざまのしるの中に、おとなしやかなる女房に移りたる御物の怪のさま、並み並みの際とは見えず。

(物の怪)命こそ野辺の

a

とは消えしかどくゆる

b

はなほぞまされる

髪振りかけ、恥ぢらひて物言はまほしげなるに、わざと封じ籠めさせ給ひて、あひしらふ人なし。

この紛れにぞはなやかに泣き出で給へる。大殿の上急ぎ見たてまつり給へば、女にておはします。院も、をととひにや、俄かに入らせ給へりし、今ぞ御心鎮めて帰らせ給ひつるに、とりあへず御佩刀参りたる。皆人心ち鎮めて扇うち使ひたるけしきども、おのが功名顔なり。かかる紛れに、無言の聖はかき消ちて見えず。いかなる祿をいかさまにと思しつるに、かひ無ければ、急ぎ戸無瀬へ尋ねたてまつれば、いとさりげなくてぞさぶらひける。「祿もよるこびもさらにかひ侍らじ。さもあらば、ここをさへ疎み侍りなん」と入道大殿聞こえ返し給へば、飽かず誰も思す。五夜七夜の御遊び、所々の御産養ひ、児の御衣に結び付けられたる歌ども、いくらも聞き侍りしかどうるさくてなん。今上一宮の出できさせ給へらん儀式はなほ例の事にて、これほどめ

づらかに光殊なる御式はなくやとぞ、時の人申し侍りける。

〈注1〉 大殿の上——恋路関白の母。

〈注2〉 院——女二宮の父。

〈注3〉 御佩刀——誕生時に天皇から授けられる刀。ここでは祖父にあたる院から授けられた。

〈注4〉 入道大殿——戸無瀬入道。花染右大将の父。

〈注5〉 御産養ひ——誕生した子どもの多幸を祈って行われる祝宴で、三日、五日、七日、九日にあたる夜に催される。

〈注6〉 今上一宮——現在の天皇の子ども。

問一 傍線部①②の漢字の読みをひらがな(現代かなづかい)で記せ。

問二 傍線部A「いぶせけれど」の意味として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 生意気だが
- 2 不真面目だが
- 3 みすばらしいが
- 4 ふてぶてしいが
- 5 気にかかるが

問三 傍線部B「現の人とは覚えず」の解釈として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 立派な人とは思えない
- 2 夢の中の人とは思えない
- 3 今の時代の人とは思えない
- 4 気の確かな人とは思えない
- 5 眠っている人とは思えない

問四

空欄

に入る語の組み合わせとして最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 a 花 b 匂ひ
- 2 a 魂 b 心
- 3 a 空 b 思ひ
- 4 a 雨 b 霞
- 5 a 露 b 煙

問五 傍線部C「物言はまほしげなるに」を現代語訳せよ。

問六 傍線部D「たてまつり」は誰に対する敬意を示すのか。最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 女二宮
- 2 無言の聖
- 3 恋路関白の子
- 4 物の怪
- 5 大殿の上

問七 傍線部E「おの」とは誰をさすか。最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 女二宮
- 2 無言の聖
- 3 大将
- 4 女房達
- 5 入道大殿

問八 傍線部F「さりげなくて」とほぼ同じ様子を述べている箇所を本文中から十二字(句読点も一字と数える)で抜き出して記せ。

問九 本文の内容に合致しているものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 陣痛で苦しむ女二宮を前にして右往左往する恋路関白や大将を見かねたのか、院と入道大殿がやって来た。
- 2 女二宮の出産後、無言の聖が褒美ももらわず戸無瀬へ戻ってしまい、皆は物足りない気持ちになった。
- 3 今上と恋路関白の子はほぼ同時期に生まれたため、恋路関白は今上に対抗して儀式に莫大なお金をかけた。
- 4 霊験あらたかな無言の聖が加持祈祷を大声で行ったところ、大山が突如として崩れ、女房達を怖がらせた。
- 5 物の怪は加持祈祷の声に怖気づき、正体が身分の高い女性だと暴露されて、入道大殿を恨みながら消えた。

